

平成 27 年度「高度人材養成のための社会人学び直し大学院プログラム」委託事業
成果報告書

『経営基盤強化を担うイノベーション人材が育つ
「MBA エssenシャルズ」プログラム』

総括

本学が文部科学省より「高度人材養成のための社会人学び直しプログラム」として委託を受けた事業は「経営基盤強化を担うイノベーション人材が育つ『MBA エssenシャルズ』プログラム』である。文部科学省との委託契約締結後、平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日の本事業の成果について総括する。

まず、平成 27 年度に本事業において開講した講義科目ならびに講座は、MBA エssenシャルズ・単科科目を名古屋・東京・大阪の 3 キャンパスにおいて 68 科目、社会人のためのビジネス資格対策講座として 8 講座である。開講した MBA エssenシャルズ・単科科目ならびにビジネス資格対策講座の一覧と受講生の内訳は、別添資料 1 (P. 4) のとおりである。

本学が MBA エssenシャルズを実施しはじめたのは平成 24 年度であるが、開始以降受講生数は順調に増加している。平成 25 年度は 742 名、平成 26 年度に本委託事業に採択されたことで広報を精力的に行なった結果 856 名となり、平成 27 年度は履修証明プログラムの制度に基づいた受講方法を導入したことで飛躍的な受講生数の増加があり 1554 名となった。また、本事業では、我が国の成長戦略の一つともなっている「女性の活躍」「女性の社会進出」の推進に寄与すべく女性のキャリアアップや学び直しに繋がる講義科目やビジネス資格対策講座を開講し、受講生募集活動においても特に女性をターゲットとした広告を積極的に実施した。平成 27 年度の女性の受講生の割合は 21.5%であり、別添資料 1-3、1-4 (P. 7) のとおりである。

本事業実施においては、産業界との組織的・実質的な連携の確保が求められており、本事業実施にあたり、「次世代産業人キャリア・ディベロップメント協議会（略称：CD 協議会）ならびに「プログラム開発委員会」を設置している。CD 協議会、プログラム開発委員会とも、構成員に企業に委員の委嘱を行って産業界との協働体制により、本事業の自己点検・評価、カリキュラム開発等を行った。平成 27 年度に実施した産業界との「協議の場」や学び直し学修ニーズに関する聴取や意見交換、平成 28 年度の本事業計画に向けてのカリキュラムに関する検討会などは、別添資料 3 (P. 10) のとおりである。

また、本事業における自己点検として、単位修得率、成績評価結果 (GPA)、受講生による授業の満足度調査結果をもとに分析を行っているが、本事業で開講された MBA エssenシャルズとビジネス資格対策講座の実績資料は別添資料 4 (P. 14) のとおりである。

本事業の普及活動としては、本学の HP 上からの本事業に関する情報公開、受講生募集、媒体を使ったプログラム紹介・受講生募集、ならびに山梨大学が主導している高度人材養成のための社会人学び直し大学院プログラムポータルサイト (<http://www.s-manabinaoshi.jp/>) への情報提供などを実施した。そして、社会人に学び直しの意義を喚起させる目的で「社会人学び直しシンポジウム」を開催した。シンポジウムの概要は別添資料 5 (P. 16) のとおりである。

また「履修証明プログラム」の受講生募集・選考を実施し、平成 27 年度 9 月と平成 28 年度 4 月には「履修証明プログラム」受講生として 22 名が科目等履修生として入学した。選考方法や選考結果は別添資料 6 (P. 17) のとおりである。

22 名のうち、1 年間でプログラムを修了した科目等履修生は 14 名、7 名は履修証明プログラムで

の学修を継続中、1名は受講生の事情により学修を中断している。また、履修証明プログラム修了生14名のうち9名が、本学修士課程に進学した。学び直しを始めたことにより、目的意識が明確になり意欲が高まったとの感想があった。

1. MBA エssenシャルズ開講科目

No.	キャンパス	科目	教員	開講日程
1	名古屋	ビジネスプレゼンテーション	伊藤 武彦	2015 : 4/11, 12
2	名古屋	ファイナンシャルエッセンス	小林 武	2015 : 4/25, 26
3	名古屋	アカウンティングエッセンス	呉 重和	2015 : 5/1, 15, 22, 29, 6/5
4	名古屋	ビジネスのための金融市場分析	瀧野 一洋	2015 : 5/9, 10
5	名古屋	B2B マーケティング	村上 功	2015 : 5/16, 17
6	名古屋	マーケティングエッセンス (春学期)	石井 竜馬	2015 : 5/30, 31
7	名古屋	クリティカルシンキング (春学期)	三宅 光頼	2015 : 6/6, 7
8	名古屋	ビジネスプレゼンテーション (英語)	Reggy Figer	2015 : 6/11, 18, 7/2, 9, 16
9	名古屋	経営品質と組織運営	望月 広愛	2015 : 6/20, 21
10	名古屋	リーダーシップスキル	伊藤 武彦	2015 : 7/4, 5
11	名古屋	ビジネスのための心理学	椿田 貴史	2015 : 7/11, 12
12	名古屋	マネジメントエッセンス	川村 稲造	2015 : 9/26, 27
13	名古屋	クリティカルシンキング (秋学期)	三宅 光頼	2015 : 10/3, 4
14	名古屋	企業再生	植田 統	2015 : 10/17, 18
15	名古屋	クリエイティブシンキング	北原 康富	2015 : 10/24, 25
16	名古屋	デザイン思考とイノベーション	井坂 智博	2015 : 11/7, 8
17	名古屋	ビジネスのための行動観察	納村 信之	2015 : 11/21, 22
18	名古屋	グローバルマネジメント	大槻 奈那	2015 : 12/5, 6
19	名古屋	ベンチャービジネス	土屋 継	2015 : 12/19, 20
20	名古屋	ビジネスモデルデザイン	小山 龍介	2016 : 1/16, 17
21	名古屋	マーケティングエッセンス (秋学期)	山岡 隆志	2016 : 1/30, 31
22	名古屋	戦略的ネゴシエーション	田作 朋雄	2016 : 2/6, 7
23	大阪	マーケティングエッセンス (春学期)	村上 功	2015 : 4/11, 12
24	大阪	ファイナンシャルエッセンス	小林 武	2015 : 5/9, 10
25	大阪	ビジネスプレゼンテーション	伊藤 武彦	2015 : 5/23, 24

26	大阪	ビジネスのための心理学	椿田 貴史	2015 : 6/6, 7
27	大阪	クリティカルシンキング (春学期)	長沢 雄次	2015 : 6/20, 21
28	大阪	ビジネスのための金融市場分析	瀧野 一洋	2015 : 6/27, 28
29	大阪	経営品質と組織運営	望月 広愛	2015 : 7/4, 5
30	大阪	リーダーシップスキル	伊藤 武彦	2015 : 7/11, 12
31	大阪	マーケティングエッセンス (秋学期)	村上 功	2015 : 9/26, 27
32	大阪	B2B マーケティング	村上 功	2015 : 10/17, 18
33	大阪	クリティカルシンキング (秋学期)	三宅 光頼	2015 : 10/24, 25
34	大阪	ビジネスのための行動観察	納村 信之	2015 : 11/7, 8
35	大阪	クリエイティブシンキング	土屋 継	2015 : 11/14, 15
36	大阪	デザイン思考とイノベーション	井坂 智博	2015 : 11/28, 29
37	大阪	ビジネスモデルデザイン	小山 龍介	2015 : 12/12, 13
38	大阪	マネジメントエッセンス	三宅 光頼	2015 : 12/19, 20
39	大阪	グローバルマネジメント	大槻 奈那	2016 : 1/16, 17
40	大阪	ベンチャービジネス	土屋 継	2015 : 1/30, 31
41	大阪	企業再生	植田 統	2016 : 2/6, 7
42	大阪	ファミリービジネス	角谷 直樹	2016 : 2/13, 14
43	東京	ファイナンシャルエッセンス	山田 隆	2015 : 4/11, 12
44	東京	ビジネスプレゼンテーション	伊藤 武彦	2015 : 4/18, 19
45	東京	ビジネスのための金融市場分析	岩澤 誠一郎	2015 : 4/25, 26
46	東京	ビジネスプレゼンテーション (英語)	Nigel Denscombe	2015 : 5/8, 15, 22, 29, 6/5
47	東京	クリティカルシンキング (春学期)	土屋 継	2015 : 5/9, 10
48	東京	リーダーシップスキル	伊藤 武彦	2015 : 5/30, 31
49	東京	Global Strategy (英語)	Stefan Lippert	2015 : 6/6, 7
50	東京	アカウンティングエッセンス	山田 有人	2015 : 6/12, 19, 7/3, 10, 24
51	東京	経営品質と組織運営	望月 広愛	2015 : 6/13, 14
52	東京	Leadership and Change (英語)	Stefan Lippert	2015 : 7/4, 5

53	東京	マーケティングエッセンス（春学期）	山岡 隆志	2015 : 7/11, 12
54	東京	Global Marketing（英語）	Nigel Denscombe	2015 : 7/11, 12
55	東京	クリエイティブシンキング	土屋 継	2015 : 9/26, 27
56	東京	意思決定のための企業分析	野坂 和夫	2015 : 10/2, 9, 23, 30, 11/6
57	東京	ビジネスのための行動観察	納村 信之	2015 : 10/10, 11
58	東京	デザイン思考とイノベーション	井坂 智博	2015 : 10/24, 25
59	東京	グローバルマネジメント	三輪 祥宏	2015 : 11/7, 8
60	東京	ビジネスネゴシエーション（英語）	Nigel Denscombe	2015 : 11/13, 20, 12/4, 11, 18
61	東京	マネジメントエッセンス	植田 統	2015 : 11/14, 15
62	東京	クリティカルシンキング（秋学期）	土屋 継	2015 : 12/5, 6
63	東京	デジタルマーケティング	山岡 隆志	2015 : 12/12, 13
64	東京	戦略的ネゴシエーション	田作 朋雄	2016 : 1/9, 10
65	東京	ベンチャービジネス	土屋 継	2016 : 1/16, 17
66	東京	ビジネスモデルデザイン	小山 龍介	2016 : 1/30, 31
67	東京	マーケティングエッセンス（秋学期）	長沢 雄次	2016 : 2/6, 7
68	東京	Entrepreneurship/New Business（英語）	Nigel Denscombe	2016 : 2/13, 14

2. ビジネス資格対策講座

No.	キャンパス	講座名	開講日程
1	名古屋	ビジネスマネジャー検定	5/30, 6/13, 27, 7/4
2	名古屋	中小企業診断士第一次試験	5/24, 31, 6/7, 14, 21, 28, 7/12, 19
3	名古屋	宅地建物取引士	7/11, 18, 8/1, 22, 29, 9/5, 19, 26
4	名古屋	ビジネス会計3級	7/11, 25, 8/1, 22
5	名古屋	ビジネス実務法務検定3級	10/4, 18, 11/8, 22
6	名古屋	BATIC Subject 1（英文簿記）	10/10, 24, 11/7, 21
7	名古屋	ビジネスマネジャー検定	10/17, 31, 11/14, 28
8	名古屋	ビジネス会計検定2級	12/5, 19, 1/16, 2/6

3. MBA エssenシャルズ受講生数（期間：平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日）

	延べ人数	実人数
受講者数	1554	630

受講者数のうち外部受講生（社会人）は 1497 名

外部受講生（社会人）の内訳

	延べ人数	実人数
外部受講者数	772	201
うち社会人	713 (92.4%)	187 (93.0%)
うち女性	164 (21.2%)	54 (26.9%)
うち企業派遣	123 (15.9%)	78 (38.8%)

4. ビジネス資格対策講座（期間：平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日）

	延べ人数	実人数
受講者数	25	25

受講者のうち外部受講生（社会人）は 15 名

外部受講生（社会人）の内訳

	延べ人数	実人数
外部受講者数	18	18
うち社会人	18 (100%)	18 (100%)
うち女性	6 (33.3%)	6 (33.3%)
うち企業派遣	1 (5.6%)	1 (5.6%)

※MBA エssenシャルズとビジネス資格対策講座を包括したときの女性受講生割合は 21.5%となる。

広報活動並びに普及活動に関する報告

1. MBA エssenシャルズプログラム説明会

社会人学び直しプログラムや MBA に興味・関心を持っている外部生を対象に本プログラムの概要、受講方法、受講生募集要項等について説明、質疑応答、個別相談等の内容にて説明会を開催した。

①説明会の内容

- ・ プログラム説明
- ・ 委託事業開始前に、本学の MBA 単科受講生の体験談
- ・ 模擬講義
- ・ 講義見学
- ・ 質疑応答

②開催回数・参加人数

委託事業開始後、計 113 回の説明会を開催した。

各キャンパスにおける開催数と参加人数は以下のとおりである。

	東京キャンパス	名古屋キャンパス	大阪キャンパス
開催回数	33 回	49 回	31 回
のべ参加人数	343 名	491 名	245 名

2. 個別相談

社会人学び直しプログラム、MBA 基礎科目の単科受講、履修証明プログラムに興味・関心を持っている社会人に対して随時個別相談を行ってプログラムの説明、受講方法、履修証明プログラム受講申込方法、等々について説明と質疑応答を行った。

個別相談件数は、53 件。

3. 社会人学び直しシンポジウム

社会人の学び直すことの重要性を広く周知することと本学の取組の普及を目的とし、シンポジウムを開催した。産業界から招聘した有識者 2 名のスピーカーによる基調講演と本学次世代産業界キャリア・ディベロップメント協議会委員（産業界）ならびに本学実務家教員によるパネルディスカッションを行った。詳細は別添 5 の通り。

4. 媒体を使った広報・普及

インターネット系メディア、雑誌、新聞広告、フリーペーパー等を活用し、プログラムの周知活動ならびに受講生募集活動を行った。

①ウェブ広告

- ・ ポータルサイトへのバナー／プログラム紹介掲載（リクルート大学&大学院 net）
- ・ Google Adwards 広告

② 媒体広告

- ・ 新聞折込広告（朝日新聞折込広告）
- ・ 地域情報紙への広告掲載（女性向け地域情報紙シティリビング）
- ・ 名古屋商工会議所機関紙へのチラシ同封
- ・ 雑誌（Forbes Japan、Think!、東洋経済、社会人&学生のための大学・大学院選び）
- ・ 交通広告

4. その他の広報活動

- ・ ホームページ作成
- ・ DM 発送（関東、東海、近畿の企業あて 5000 件）
- ・ リーフレット/パンフレット発送
- ・ プログラム案内のメール送付

【1】次世代産業人キャリア・ディベロップメント協議会ならびにプログラム開発委員会開催

次世代産業人キャリア・ディベロップメント協議会とプログラム開発委員会は同日に行っており、平成27年4月1日～平成28年3月31日において2回開催した。

1. 実施目的

①次世代産業人キャリア・ディベロップメント協議会は、産業界からの次世代人材へのニーズや高等教育機関への要望の聴取を目的として行った。

重点項目

- ・ 女性の活躍のための条件整備：マネジメントの基本リテラシーの学び直し
- ・ グローバル人材の需要：New Asiaでのリーダーシップの発揮
- ・ ビジネスと組織にイノベーションを起こす力：発散型創造型思考力

②プログラム開発委員会は、CD協議会の検討依頼事項の具体化に向けたカリキュラム開発を目的として行った。

重点項目

- ・ 次年度の本事業への反映のための具体的な内容の議論と具体化
- ・ 受講者への事後アンケート（大学側および企業側）の分析、課題発見、開発テーマ
- ・ 事業実践にもとづく価値ある知見やノウハウを、いかに広く社会産業界に還元するかを検討

2. 構成員

所属	名前
株式会社アルペン 教育研修部長	大澤 恒雄
株式会社アルペン 教育研修部 e-ラーニンググループ	清見 賢一
名古屋発條工業株式会社 代表取締役	三輪 佳史
瀬戸信用金庫 人事部副部長	石塚 大祐
瀬戸信用金庫 人事部研修担当グループ長	堀田 克弘
テンプスタッフラーニング 営業部長	小室 銘子
名古屋商科大学大学院 研究科長	川村 稲造
名古屋商科大学大学院 教授	山岡 隆志
名古屋商科大学大学院 教授	北原 康富
名古屋商科大学大学院 事務局長	早川 京子
名古屋商科大学大学院 企業研修担当	上田 麻由子

3. 第1回次世代産業人キャリア・ディベロップメント協議会ならびにプログラム開発委員会報告

【日 時】平成27年9月25日（金） 15:30～16:10

【場 所】名古屋商科大学大学院 名古屋キャンパス丸の内タワー

【協議内容】

①次世代産業人キャリアディベロップメント協議会の目的の再確認

- ・女性の活躍に繋がるために必要な条件整備とは
- ・日本がアジアを牽引する国としてアジアのグローバル環境下でリーダーシップ
- ・ビジネスと組織にイノベーションを起こす力

②企業からの受講生の現状把握

- ・企業への周知活動
- ・企業派遣の受講生の増加
- ・企業担当者の意見の紹介

③受講生の分析

- ・社会人受講生の学歴、職業、受講動機などの分析

④産業界が必要とする人材育成の把握

- ・企業の社員に不足していると感じる能力
- ・時代の変化に応じて今後必要とされる能力
- ・産業界の要望に合致する教育内容の検討

4. 第2回次世代産業人キャリア・ディベロップメント協議会ならびにプログラム開発委員会報告

【日 時】平成28年2月20日（土） 10:30～12:00

【場 所】名古屋商科大学大学院 名古屋キャンパス丸の内タワー

【協議内容】

①平成27年度度 MBA Essentials 事業報

- ・受講生数について
- ・授業調査結果について
- ・外部受講生の単位取得状況について

②履修証明プログラム 実績報告

- ・履修証明プログラムから大学院への出願状況
- ・受講生の感想紹介

③平成28年度 MBA Essentials 事業計画について

- ・平成28年度年度カリキュラム
- ・受講方法の紹介（単科受講、コース受講、履修証明プログラム）
- ・企業向けのご提案

④本学が認定を受けた制度

- ・職業実践力育成プログラム認定

- ・ 専門実践教育訓練給付指定講座（個人向け）について
- ・ 専門実践教育訓練給付指定講座（企業向け）について

【2】産業界・社会人ニーズ協議会開催

社会人との学修ニーズ協議会を次のように開催し、本学で提供している全プログラムのカリキュラム編成ならびに教育課程の改善に向けて企業や社会人の学修ニーズの聴取を行った。本協議会には、本大学院のOB&OGの社会人やMBAプログラムへ受講生を派遣している企業の人事担当者が招待された。

特に、平成27年度の協議会においては、本委託事業によるMBAエッセンシャルズの実施結果を報告し、参加者からの本プログラムに関する意見や社会人や企業の立場からの意見や今後の本プログラムに対する学修ニーズを聴取することができた。

【Agenda】

- ・ 本大学院のミッション・教育方針について
- ・ カリキュラム体系について
- ・ 講義の質と内容について
- ・ 教員の教育と研究に関する質と内容について
- ・ 修了生との連携、活用、あるいは同窓会について
- ・ 企業との連携や企業向けサービス拡大について
- ・ 学生募集ほか対外広報活動の質と内容について

1. 平成27年度産業界・社会人ニーズ協議会（会計ファイナンス研究科）

【日時】平成28年1月23日（土） 15:00～16:30

【場所】名古屋商科大学大学院 名古屋キャンパス丸の内タワー

【出席者】本学側からは大学院Public Relations委員会委員、事務局職員、招待者として社会人（修了生、企業経営者、研修担当者）

所属	名前	名古屋
名古屋商科大学大学院 教授	斉藤 孝一	○
名古屋商科大学大学院 教授	佐野 哲哉	○
名古屋商科大学大学院 教授	松田 和久	○
名古屋商科大学大学院 事務局長	早川 京子	○
名古屋商科大学大学院 事務局	保木本 祐実	○
名古屋商科大学大学院 事務局	上田 麻由子	○
企業	1社（1名）	○
社会人	7名	○

2. 平成 27 年度社会人との学修ニーズ協議会（マネジメント研究科）

【日 時】平成 28 年 1 月 23 日（土） 17：00～18：30

【場 所】3 キャンパス合同にて実施（名古屋、東京、大阪と TV 会議システムにて同時開催）

【出席者】本学側からは大学院 Public Relations 委員会委員、事務局職員、
招待者として社会人（修了生、企業経営者、研修担当者）

所属	名前	名古屋	東京	大阪
名古屋商科大学大学院 研究科長補佐	伊藤 武彦	○		
名古屋商科大学大学院 教授	長沢 雄次		○	
名古屋商科大学大学院 教授	小野 裕二			○
名古屋商科大学大学院 事務局長	早川 京子	○		
名古屋商科大学大学院 事務局	加藤 恵子	○		
名古屋商科大学大学院 事務局	安藤 智之	○		
名古屋商科大学大学院 事務局	玉腰 千湖	○		
名古屋商科大学大学院 事務局	上田 麻由子	○		
名古屋商科大学大学院 事務局	浅田 桜子	○		
名古屋商科大学大学院 事務局	長橋 美智子	○		
企業	3 社（4 名）	○		
社会人	21 名	○	○	○

1. MBA エssenシャルズ 科目等履修生の履修結果（英語科目を除く）

成績評価	合格				不合格		受講者数
	A	B	C	D	F	不完全	
合計	60	177	186	105	47	125	700
割合	8.6%	25.3%	26.6%	15.0%	6.8%	17.7%	
合計	528				172		
割合	75.4%				24.6%		

2. MBA エssenシャルズ受講者による授業調査結果

講義終了後、受講生に以下 8 項目について 1 から 5 点の評価をさせる授業調査を行った。

・春学期

質問項目		平均ポイント
問 1	シラバスに明記されている学習目標（Learning Goals）が達成できるよう授業が行われた。	4.62
問 2	指示された予習の指示および課題は授業の理解を深めるうえで有用であった。	4.60
問 3	授業におけるケース・スタディ（事例紹介）あるいは実習・実技は適切であった。	4.58
問 4	先生の説明は明瞭で聞き取りやすく、プレゼンテーション等を用い分かりやすく工夫されていた。	4.58
問 5	先生は積極的に質疑討論を促した。	4.61
問 6	先生の教え方には熱意が感じられた。	4.74
問 7	この授業は私のキャリア形成に資するものであった。	4.63
問 8	この授業は私の短期的あるいは長期的なキャリア形成に資するものであった。	4.64

・ 秋学期

質問項目		平均ポイント
問 1	シラバスに明記されている学習目標 (Learning Goals) が達成できるよう授業が行われた。	4.62
問 2	指示された予習の指示および課題は授業の理解を深めるうえで有用であった。	4.61
問 3	授業におけるケース・スタディあるいは実習・実技は適切であった。	4.60
問 4	先生の説明は明瞭で聞き取りやすく、プレゼンテーション等を用い分かりやすく工夫されていた。	4.60
問 5	先生は積極的にクラスディスカッションを促した。	4.60
問 6	先生の教え方には熱意が感じられた。	4.71
問 7	この授業は私のキャリア形成に資するものであった。	4.60
問 8	この授業は私の短期的あるいは長期的なキャリア形成に資するものであった。	4.68

3. ビジネス資格対策講座受講者アンケート (8 講座平均)

評価	割合
大変有意義だった	16 (64.0%)
有意義だった	9 (36.0%)
少々もの足りなかった	0
満足できなかった	0

社会人学び直しシンポジウム開催

【日 時】平成 28 年 2 月 20 日（土） 13:00~15:30

【場 所】名古屋商科大学大学院 名古屋キャンパス丸の内タワー

【参加者】184 名

学び直すことの重要性を広く周知することを目的とし、シンポジウムを開催した。社会に出て実務を経験した後に高等教育機関で学び直した 2 名のスピーカーが基調講演を行ない、自身の経験を交えて、社会人の学び直しの有益性や、学び直した事をどのように活用しているか事例を交えて紹介した。基調講演者、企業の人材育成担当、本学の社会人教育を担当している教員を交えてパネルディスカッションをし、産業構造・社会構造の変化等が進む中求められている中核的専門人材や高度人材のための社会人や女性等の学び直しについて意見交換をした。

【シンポジウム概要】

・ 基調講演 1

講演者：IDEO Tokyo ディレクター 野々村健一氏

講演概要：ビジネスにおけるイノベーションやクリエイティビティの重要性に加え、大学院やビジネススクール等で「学び直す」ことの有益性等。

・ 基調講演 2

講演者：ネットイヤーグループ株式会社 代表取締役社長兼 CEO 石黒不二代氏

講演内容：子育てと仕事を両立し、長期的なキャリア形成のために学び直す必要性を感じた経緯や、働く女性に立ちほだかる問題をいかに乗り越えたのかについて。

・ パネルディスカッション

ファシリテーター：名古屋商科大学教授 北原康富

パネリスト：IDEO Tokyo ディレクター 野々村健一氏

株式会社アルペン 教育研修部長 大澤恒雄氏

瀬戸信用金庫 人事部副部長 石塚大祐氏

名古屋発條工業株式会社 代表取締役社長 三輪嘉文氏

ネットイヤーグループ株式会社 代表取締役社長兼 CEO 石黒不二代氏

テンプスタッフラーニング株式会社 営業部長 小室銘子氏

名古屋商科大学教授 伊藤武彦

内容：各企業の人材育成担当者が感じている、ビジネスパーソンに学び直してほしい内容の意見交換。外部環境の変化スピードが早い中で、一度だけでなく定期的かつ継続的に学び直すための環境整備について。

平成 27 年度 9 月入学及び、平成 28 年度 4 月入学 履修証明プログラム受講生募集・選考結果

1. 受講生の審査方法

応募申込書類による 1 次審査後、インタビューにて 2 次審査を行う。

① 応募申込書類

- ・ 受講申込書
- ・ 課題エッセイ
- ・ 卒業証明書
- ・ 学業成績証明書
- ・ 応募審査料振込証明書
- ・ 英語力証明書類（該当者のみ）
- ・ 健康診断書（該当者のみ）
- ・ 派遣証明書（該当者のみ）
- ・ 外国人登録証明書またはパスポートの写し（該当者のみ）
- ・ 留学費支払能力に関する証明書（該当者のみ）
- ・ 日本語能力に関する証明書の写し（該当者のみ）

② インタビュー

1 名の志願者に対し、2 名の面接官（教員）で 15 分～20 分のインタビュー

2. 審査結果

志願者数	1 次審査通過者数	2 次審査合格者	入学(受講)手続者
24	24	22	22

様式第 15（無断複製等禁止の標記）

無断複製等禁止の標記について

委託業務に係る成果報告書の無断複製等の禁止の標記については、次によるものとする。

本報告書は、文部科学省の「高度人材養成のための社会人学び直し大学院プログラム」委託費による委託業務として、《学校法人栗本学園 名古屋商科大学》が実施した平成27年度《経営基盤強化を担うイノベーション人材が育つ「MBA エssenシャルズ」プログラム》の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等には文部科学省の承認手続きが必要です。